

(7) 実践の考察

ア 抽出生徒の変容から

手立ての有効性について、3名の抽出生徒(A、B、C)を取り上げ、グループ内の対話活動の様子及び抽出生徒のワークシートの記述を基に考察します。

対話活動をしよう

教師：タブレット端末と全体の作品を見比べながら、感じたことを話し合ひましょう。



「作品のどこの部分からそう思いましたか」

ワークシートに記入したことをもとに発表してください。

【生徒たちによる対話の内容】

D①：発表してください。



C①：雨が降っていて、釣り竿を持っている（作品中の「人」が持っている長い棒を指さす）。



B①：釣り？こんな大勢で？

全①：みんなで作品の中を覗き込む（疑問をもった様子）。



B②：参勤交代の場面だよ。

全①：参勤交代の場面という発言で、みんな頷く（納得した様子）。



C②：なんだ！釣りじゃないのかあ（納得した様子）。



A①：みんな指示を待っていると思う（作品中の「人」を指しながら）。

D②：何の指示ですか？



A②：（沈黙・・・）



B③：雨が降っていて、みんなは川を渡りたいが止まっていると思う。

D③：何で止まっているの？

全②：何で止まっているのか考える。（タブレット上で拡大する。）



A③：川が氾濫して、橋が壊れたのかな（人々で隠れている橋を指している）



B④：早く川を渡って、城に帰りたいんだよ。

C③：雨の中、参勤交代するんだね。



B⑤：合羽着て、雨の中も（参勤交代）するんだ。たぶん・・・（推測している様子）。



C④：雨に濡れると、荷物が重いだろね。

全③：みんな自分の雨の経験を思い出して頷く（納得した様子）。



A④：あっそうだ（手を打つ）。壊れた橋を直そうとしているんじゃないの。

全④：どうかな、首をかしげる（疑問をもった様子）。



教師：話し合った結果、自分の考えが変化した部分を、ワークシートに書き出してみよう。

「新しい発見はありませんか？」再度作品を見直してください。

【教師の分析・解釈】

このグループは対話活動への入り方が大変スムーズでした。作品との出会いの段階で、教師の発問によって、生徒が作品中の出来事を考え始めていたからだと思われます。さらに、導入段階で雨の経験や山の中を歩いた経験を話したことで、生徒が自分たちの身近な世界と作品の中の出来事を素直に結び付けて考え始めたと思われます。また、事前の実態調査で、生徒Cは「作品の見方が分からない」と回答していましたが、VTSの発問から対話活動に入っていくことで、作品の細部から作品全体に観察することができ、雨の中での経験まで気付くことができました。しんしんと雨が降る山中を、進むことが出来ないと判断した生徒たち。待たされる作品中の人々の心情まで迫った考えをもつことができている点から、今回の対話活動が生徒たちに有効的に働いていると考えます。

抽出生徒のワークシート

●抽出生徒A

美術鑑賞 ワークシート 年 組 号氏名()

1 作品をみて作品の中で起きていることは何ですか

大洪水が起きて橋が壊れている。男の人達が橋を渡って何かしようとしている。

2 どこから、そう思いましたか

大勢の人が集まっているところ

3 なぜそう思いましたか

橋を渡れないと困っている。

4 対話活動を通して
納得できた答えは [!] よくわからないと感じる答えは [?]に記入しなさい

指示を待っている。 [!]

[?]

5 もう一度作品を見直してみよう

雨が降りすぎて堤防が崩れて、川が氾濫したので橋を直そうとしている。

抽出生徒 A は、最初「大洪水が起きて橋が壊れている。男の人達が橋を渡って何かしようとしている」と書いています。その根拠として作品の中の「大勢の人が集まっているところ」に注目していることが分かります。「なぜそう思いましたか」の質問に対し「橋を渡れないと困っている」と書いています。

対話活動中では、「みんな指示を待っている」と発言しています (A①)。人の動きがなくてじっと待っている印象をもっていることが分かります。「何の指示ですか? (D②)」と質問されて、考えています。「川が氾濫して、橋が壊れたのかな」(A③)と、人の影に隠れている橋の部分を指さして言っています。対話活動後では、「雨が降りすぎて堤防が崩れて、川が氾濫したので橋を直そうとしている」と書いています。質問より、人々が集まっている理由を考え、指示を待っていると考えたこと

から、どんな指示なのかと考え、「橋を直す」という指示を待っていると考えたのではないかと思います。

抽出生徒Aは、最初の「なぜそう思いましたか」の問いに対し、作品中の人々の容姿から考えているのではなく、すでに人々の心情のことを考えています。対話活動中にD②の質問より、川の氾濫から橋の壊れにつながり、人々の困っている心情へつながっています。描かれている人々が前に進む意思よりは、人々が何をしようとしているのかを考えていることが分かります。もう一度作品を見直したことで、橋を直すことに発展したストーリーを生み出していることが分かります。

●抽出生徒B

美術鑑賞 ワークシート 年 組 号氏名()

1 作品をみて作品の中で起きていることは何ですか

参勤交代中に橋を渡ろうとしている時に雨が降って川が氾濫した。

2 どこから、そう思いましたか

川が氾濫しているところ

3 なぜそう思いましたか

参勤交代が進んでいないから

4 対話活動を通して

納得できた答えは [1] よくわからないと感じる答えは [?]に記入しなさい

雨の中で荷物が重たい。川を渡れない

雨の中でも進まなくてはいけなくていい

5 もう一度作品を見直してみよう

参勤交代中に橋を渡ろうとしている時に雨が降りすぎて堤防が崩れて、川が氾濫した。

抽出生徒Bは、最初「参勤交代の場面で橋を渡ろうとしている時、雨が降って川が氾濫した」と書いています。その根拠として作品の中の「川が氾濫しているところ」に注目していることが分かります。その根拠を「参勤交代が進んでいないから」と書いています。対話活動中では、生徒Cの「雨が降っていて、釣り竿を持っている」(C①)という発言に対し、「参勤交代の場面だよ」(B②)と、教えています。また、「雨が降っていて、みんな、川を渡りたいが止まっていると思う」(B③)と発言しています。「早く川を渡って、城に帰りたいんだ」と話しており、生徒Cから、「雨に濡れると、荷物が重いだらうね」(C④)と言われたことで、雨の中での自分の経験を思い出して納得できていると推察されます。対話活動後の感想では、「参勤交代中に橋を渡ろうとしている時に、雨が降りすぎて堤防が崩れて、川が氾濫した」と書いています。川が氾濫した理由を考え「堤防が崩れて」と書いています。生徒Bは、対話活動中に、川が

氾濫した理由をさぐっており、堤防という言葉の思いついています。堤防という言葉が日常生活の知識から出てきているように思えます。

●抽出生徒C

美術鑑賞 ワークシート 年 組 号氏名()

1 作品をみて作品の中で起きていることは何ですか

人がいる。釣りをしに来た。

2 どこから、そう思いましたか

長い棒を持っている

3 なぜそう思いましたか

川が釣竿だと思った。

4 対話活動を通して

納得できた答えは [1] よくわからないと感じる答えは [?]に記入しなさい

参勤交代の行列

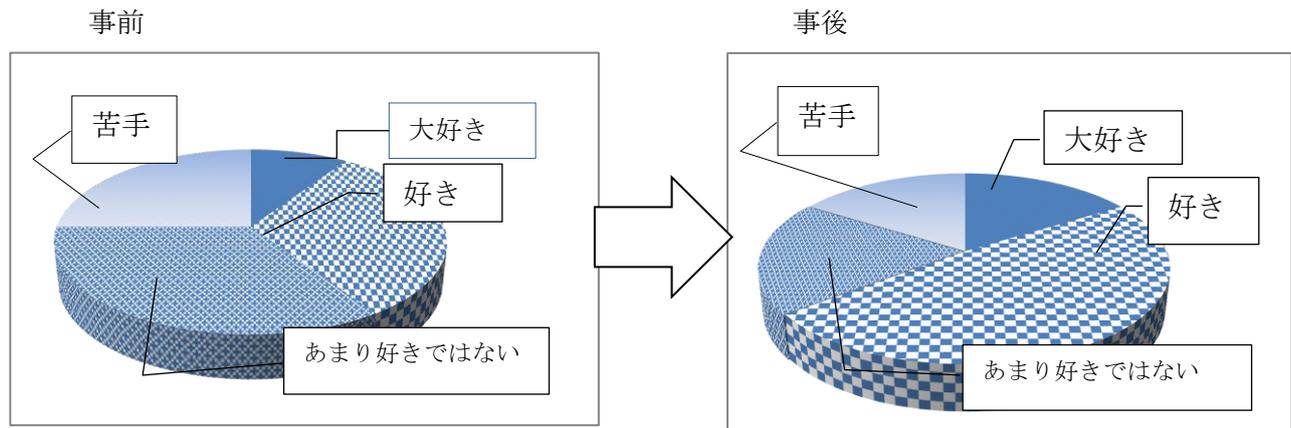
雨が降っているのに、止まっているのはなぜかな。

5 もう一度作品を見直してみよう

雨の中で釣竿の人が足止めされている。

抽出生徒Cは、最初作品を見て「人がいる。釣りをしに来た。」と書いており、その根拠として「長い棒を持っている」ことに注目していることが分かります。さらに、長い棒を「釣り竿だと思った」と書いています。対話活動中では、生徒Bから「参勤交代の場面だよ」(B②)と、教えられることによって、釣りをしに来ている場面ではないと対話活動を通して確認しています。さらに、「雨の中、参勤交代するんだね」(C③)と、雨に注意が向き、さらに、「雨に濡れると、荷物が重いだらうね」(C④)と発言しています。対話活動後には、「大雨で大勢の人が足止めされている」と書いています。対話活動前では、作品の一部にしか目が行っていなかった生徒Cが、対話活動によって「作品の天気、大勢の人々の様子」まで注目することが出来ていることがうかがえます。生徒Bの「渡りたいが止まっている」(B③)の発言から、みんな考えている時間が、「足止め」という言葉を使うことになっています。前に進めない時の気持ち「いらいら」までも読み取れていると判断できます。

イ 意識調査の結果から

鑑賞の授業の意識調査

a	大好き	9%
b	好き	29%
c	あまり好きでない	31%
d	苦手	20%
e	無回答	11%

a	大好き	16%
b	好き	47%
c	あまり好きでない	19%
d	苦手	16%
e	無回答	0%

事前から事後で鑑賞が好きに変化した理由は、

a	自分と違う意見が聞けて楽しかった。	43%
b	話し合うことで、作品がしっかり見ることができた。	20%
c	友達の見ている場所（根拠）が分かり、いろんなところに気付くことができた。	26%
d	作品を見るのが好きだから	6%
e	無回答	6%

対話活動を取り入れたことで、鑑賞の授業に対して肯定的に捉えている生徒が 38%から 63%へと増加しています。その理由として、「自分の考えと違う意見が聞けて楽しかった」と回答した生徒が 43%いることが分かりました。他にも、同じ作品を見て意見の交換ができたことに、意義を感じた生徒が 26%いることが分かりました。また、意見の交換から作品をしっかり見ることができた生徒も 20%いることが分かりました。友達の見ている箇所を示してくれることで、多くの気づきが生まれていることが分かります。対話活動の中でも「どうして」と質問する友達に対して、自分の感じ方の根拠を考え伝えていました。相手とのやり取りの中で、自分の感じ方が変化し作品を深く読み取ろうとする雰囲気が出ていきました。教師の「他にもっと発見はありませんか？」という発問に対し、作品の中に描かれていることから感じよう、見つけようと意欲をみせる生徒が出てきました。さらに、実際描かれていない物を感じ、作品の中にストーリーを考えていく生徒が出てきました。

ウ 事後実態調査の結果から

検証授業後に、実態調査を行いました。

(7) 事後実態調査の概要

対 象：中学2年生 (35名)

実施時期：平成28年12月9日

鑑賞作品：歌川広重 東海道五拾三次 「四日市 三重川」

前回の作品「土山 春之雨」より、「四日市 三重川」は動きがあり、ユーモラスな場面を取り上げた作品になっています。

質問内容：①この作品の中でどんな出来事が起きていますか。

②どこからそう思いましたか。

(4) 事後実態調査における生徒の回答類型及び結果の分析

	生徒の回答類型	生徒の記述の具体例	結果
a	動作に注目している。	転びそうになっている。	9% (3人)
b	人物の年齢・容姿に注目している。	おじさん。男の人。	9% (3人)
c	作品の画面と日常生活を結び付けている。	傘が風に吹き飛ばされ、慌てて取りに行っている。 強い風に吹き飛ばされないようにじっとしている。	40% (14人)
d	作品の画面と自分の想像した世界を結び付けている。	川に落ちて、もう一人が助けに行っている。 みんなで助けにきた。	29% (10人)
e	作品の画面の細かい部分を見て想像している。	船が近付いて来て、飛び乗った。	14% (5人)

[事前調査と事後調査の比較]

	生徒の回答類型	結果 (事前)	結果 (事後)
a	動作に注目している。	37% (13人)	9% (3人)
b	人物の年齢・容姿に注目している。	14% (5人)	9% (3人)
c	作品の画面と日常生活を結び付けている	34% (12人)	40% (14人)
d	作品の画面と自分の想像した世界を結び付けている。	6% (2人)	29% (10人)
e	作品の画面の細かい部分を見て想像している。	9% (3人)	14% (5人)

〔結果の分析〕

授業後の実態調査では、美術作品を見る時に、「作品の中で、どんな出来事が起きていますか」「作品のどこからそう思いましたか」と考えながら作品をみることができる生徒の数を調査しました。

回答類型 a の割合が 37% から 9% へ、回答類型 b の割合が 14% から 9% へと、それぞれ減少しています。逆に、回答類型 c の割合が 34% から 40% に増えました。このことより、作品中の人物の動作や容姿のみに偏った見方にならず、生活体験（日常生活）で見ることができていることが分かります。例えば、「船が描いてあるところから、ここは船着き場であり、お客を乗せた船が着く。」と書いた生徒がいます。これから起きることを予測していることは、作品の中の時間の経過を見ることができていることだと考えられます。回答類型 e の割合が 9% から 14% に増えました。1 枚の絵をまるで動いている動画のように捉えているところは、大変ユーモラスです。検証授業前には見られなかった感じ方をしていると思われます。画面全体からストーリーを考えることができていることは、作品についての自分の考えの根拠を考え、作品の中に一步踏み込んで解釈ができるようになったと考えられます。